

事業再評価シート

事業名	湛水防除事業		
箇所名	正蓮寺	市町村名	宮崎市

実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 交付金 <input type="checkbox"/> 県単					
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度			
	H28	R7	R10			
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既投資額 (百万円)	進捗率(%)			
	(1,267) 3,030	1,859	<table border="1"> <tr> <th>事業費</th> <th>用地</th> </tr> <tr> <td>61.4</td> <td>100.0</td> </tr> </table>	事業費	用地	61.4
事業費	用地					
61.4	100.0					
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)			
	事業採択後10年経過		<table border="1"> <tr> <td>(1.10)</td> <td>1.32</td> </tr> </table>	(1.10)	1.32	
(1.10)	1.32					
対応方針原案						
継続						

全体計画	<p>本地区は、宮崎平野の南端に位置し、宮崎市中心部から南へ約10kmの距離にあります。背後には鱈塚山系の山々が連なり、その源流を湛える二級河川・加江田川の左岸に広がる、流域面積352haの農業地帯です。</p> <p>これまで本地区は、毎年のように台風や豪雨により湛水被害に悩まされてきました。そのため、昭和54年には県営湛水防除事業「正蓮寺地区」として、排水機場が整備されたところです。</p> <p>しかし近年、地区北部の丘陵地では区画整理による宅地造成が進むなど、流域の開発が進行しています。これにより、降雨時の流出量が増大し、既存の排水機場および排水路では対応しきれず、低位部で湛水被害が発生しています。</p> <p>このような湛水被害を軽減するため、排水機場の増設と排水路の改修を実施し、農業生産の維持および農業経営の安定化を目指します。</p>
------	--

事業概要	<p>受益面積A=102ha 流域面積A=352ha 排水機場 1式 (Q=5.0m³/s φ1650) 排水路改修 L=1,040m</p>
------	--

事業目的	<p>①湛水被害の軽減と農業生産の維持 排水機場を増設することにより、地区内の湛水被害を軽減し、農業生産の維持を図ります。</p> <p>②水害リスクの低減 当該水路は平野部に位置し、自然流下しにくい地形のため、上流側で排水が滞留しやすく、これが降雨時の湛水被害の原因となっています。そのため、排水路整備によって適切な水路勾配と通水断面を確保し、水害リスクを低減します。</p>
------	---

事業の進捗状況

〈現在の事業進捗〉（令和7年度末見込み）

- ・排水機場 1式／1式（100.0%）
- ・排水路改修 550m／1,040m（52.9%）

〈今後の事業進捗の見込み〉

- ・令和8年度に220mの施工
- ・令和9年度に220mの施工
- ・令和10年度に残りの50mを施工し、令和10年度に事業完了予定

〈効果の発現状況〉

- ・令和3年に排水ポンプを増設し、湛水被害が軽減されている。
- ・農業生産の維持と農業経営の安定が図られつつあり、特に排水能力の向上に寄与している。

〈事業が長期化している理由〉

- ・排水路工において、地盤が軟弱であることが判明し、これの調査及び工法検討に期間を要したため
- ・また、隣接するJR九州日南線の橋梁下工事の協議において、調査及び施工に期間を要したため

社会情勢等の変化

〈事業を取り巻く社会情勢の変化〉

- ・人口減少や高齢化による農家戸数及び農業就業人口の減少
- ・台風や局所的豪雨等による災害の発生が多発

事業効果の分析

〈費用対効果〉

- ・費用対効果は、1.32である。

〈事業を継続することの事業効果分析〉

- ・残りの排水路整備を完了させることで、既に整備されている排水機場と一体的かつ効果的な運用が可能となり、災害発生を未然に防ぎ、生命・財産・農地の安全を確保し、維持管理の軽減を図ることができる。

コスト縮減

- ・再生資材（再生クラッシャーラン）の積極的な活用

代替案の可能性

- ・新規路線や他工法の採用は不可能であり、事業効果を発現させるためには、残事業の排水路整備が必要であり、代替案の可能性はない。

対応方針

継続

位置図（管内図）

湛水防除事業 正蓮寺地区 位置図

